

厚生労働科学研究費補助金
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業
(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)
研究分担報告書

病原体及び毒素の管理システムおよび評価に関する総括的な研究(H24-新興-一般-013)

ヒトに病原性のある出血熱ウイルスの解析とリスク分類に関する研究

研究分担者 安田二郎 長崎大学熱帯医学研究所新興感染症学分野・教授

研究要旨:病原体管理システムを長崎大学熱帯医学研究所新興感染症学分野に導入し、試験運用を行った。

A. 研究目的

国立感染症研究所にて開発された病原体管理システム ICBS を実際に運用し、本システムに対する使用面、運用面の問題点、要望について意見集約を行う。

B. 研究方法

平成 26 年度に導入された病原体管理システム ICBS にて長崎大学熱帯医学研究所新興感染症学分野にて所有する BSL-2 病原体の保管・管理作業を試験的に行い、システムの使用面、運用面の利点、問題点等について使用者からの意見集約を行った。

(倫理面からの配慮について)

該当なし。

C. 研究結果

長崎大学熱帯医学研究所新興感染症学分野にて所有する BSL-2 病原体 2 種を ICBS に登録し、保管バイアル数、使用本数等の管理を行った。

本システムは、バーコード入力により病原体の使用履歴、保有状況を自動管理できることから、従来の帳簿記載による管理方法と比較し全体として有用性が高いとの意見があった。個別には、

現行では、バーコードリーダーで読み取った各バイアルの情報を管理用 PC 画面上で見る形だが、液晶画面付のバーコードリーダーの使用等により、バイアル情報をバーコードリーダー上で閲覧、更新できると良い、バーコードリーダー端末からのサーバー PC へのデータの遠隔入力ができると利便性がよい、バイアル使用時に即入力できるため記入漏れの防止にも繋がる、などの意見があった。

D. 考察

今回本システムで管理する病原体数, バイアル本数が少なかったが, 管理対象となる病原体数, バイアル数が更に増加した場合, 本システムの有用性は更に高まると考えられる.

E. 結論

バーコードリーダー端末による ICBS システムは, 病原体管理システムとして有用性が高い. 運用実績の積み重ねにより更に実用性が高まると考えられる.

F. 健康危険情報

該当なし.

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし.

1. 特許取得

該当なし.

2. 実用新案登録

該当なし.

3. その他

該当なし.